



みずぐち こういち
水口 孝一

1935年3月15日生まれ。士別市出身。最近の楽しみは、老人クラブの集まりで、会員の方々とお話をすることと笑顔だった。

恵まれた環境に感謝

水口さんは中学校卒業後、夕張市の建築工務店で大工見習いとして4年間勤務され、当時猿払村に親戚が住んでいたことをきっかけに村へと移住しました。

村に来てからは、清水工業(株)の当時の社長に声をかけてもらい、芦野小学校の増設作業の手伝いをしていました。冬の時期は吹雪く日が多く、車が止まってしまうことがよくあり、当時住んでいた鬼志別から現場まで歩いて通ったこともあったなど、大変なこともたくさんあったが、今ではいい思い出と語ります。

昭和40年代には建設会社を設立。会社の設立には、申請が必要で、承認してもらうために、過去の活動実績の書類をかき集めてま

とめる作業を行ったそうで、本当に大変な作業だったが、周りの方々に支えられながら、何とかやり遂げることができたと笑顔でした。

猿払村に対しては、昔に比べ一次産業の機械化が進み、規模も拡大してきているので、若い人にとってよりやりがいのある仕事に変化してきたと感じる反面、一次産業以外の職業が少ないため、若者の働き先の確保など、村に人が残るような環境を作ってほしいと話してくれました。

最後に、今後の村を担う若者へ向けて、「学校生活などを通してできた仲間との繋がりをいつまでも大切にしていってほしい」と話してくれました。

時代の立役者と
未来を担う若者

紡ぐ時代

つながる未来

今と未来のインタビュー

将来は尊敬されるお父さんに

中山さんは、姉2人がバドミントンをやっていた影響で、自身も中学校からバドミントン部に所属。部活動では、人に何かを聞くときは選択肢を提示して相手が答えやすくするなど、考えてから話すことを心がけ、人を動かす力が身についたとのことでした。

現在は、合唱委員会に所属し、テナーリーダー、指揮者を務めています。12月に行われる定期演奏会に向けて練習中です。コミュニケーション能力を身に着けたいと思っていたこともあったため、合唱委員会に所属してからは、リーダーとは何か、リーダーの心得などをYouTubeで学んだそうです。実際は、男子全員が進んで行動してくれるので、とてもやりやすいと話していました。

猿払村の良いところは、ホタテが美味しいところ。最近は、新型コロナウイルスの影響でお祭りなど行事が開催されていないので寂しいとのこと。お祭りで賑わっている猿払村が好きなので、早く開催できるようにしてほしいと話していました。

具体的な将来の夢は決まっていないので、いつか行きたい学校や夢が見つかった時のために、今のうちに勉強を頑張っているとのことでした。

最後にどんな大人になりたいかを聞くと、「漁師として朝早くから仕事をし、家族に優しい父や母の姿を見ていたので、尊敬されるお父さんになりたい」と笑顔で話してくれました。



なかやま きみのり
中山 喜良功

拓心中学校3年生。おばあちゃんの作る料理が好き。人と話すことが好きなため、部活では、移動のバス時間が特に楽しかったと笑顔。

地域おこし協力隊の挑戦

旧芦野小学校グラウンド跡地に新設されたビニールハウスで、葉物野菜やイチゴの栽培を行っています。栽培を通して、人の手と最先端技術による新しい施設園芸栽培の調査研究に挑戦しています。

イチゴから野菜へ

今年の3月から始まった夏イチゴの栽培が、11月下旬に終了しました。想像以上の苦勞が多くありましたが、無事に終わることができました。また、冬のイチゴと比べると決して安くはない値段でしたが、手に取ってくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本来にありがたうございました。これからの冬期間はイチゴを一旦お休みして、野菜の栽培がメインとなります。

9月下旬、片方のハウスではイチゴの栽培を先に終了し、昨年度同様に野菜の栽培を開始しました。今年の2月には野菜の畑をイチゴ栽培用の高設設備に切り替えましたが、今度はその設備をすべて撤去し、もう一度野菜の畑にしました。通常の畑と高設設備を1つのハウスで実現することは、普通の農業ではあり得ない、猿払のハウスならではの特徴だと思えます。



猿払村地域おこし協力隊
塚田 治幸



収穫直前の立派なりーフレタス

今年は、昨年度も栽培した小松菜やチンゲン菜をはじめ、鍋にぴったりな水菜や春菊など、計14種の野菜を栽培しています。また、昨年よりも1週間早く定植しましたが、暖かい日が続いたため、1か月も早く収穫を開始できました。野菜の成長の早さには驚かされるばかりです。畑に定植された苗は、1週間で倍以上の大きさに成長し、1〜2日見なかっただけで「こんなに大きかった?」と思うほど。すぐに立派な野菜になってくれました。

11月からはQマートでの販売を開始しました。今年度の野菜の栽培は1棟のみで行うため、あまり長期間の販売はできませんが、様々な野菜を取り扱っていただきます。今年もさるぶつ産の新鮮な野菜をぜひ食べてみてください。